

ハンドボール(小学生)の簡単な競技説明

<試合時間>

1試合前後半7分(前半7分、ハーフタイム3分、後半7分、入替え3分)。同点の場合は、1分間の休憩を挟み2分間の延長を行い、それでも決まらない場合は、終了のブザーが鳴っても試合を継続し、先に点を入れたチームを勝者とする。

<ボール>

小学生用試合球(1号球)

<プレー人数>

コートプレーヤー6名、ゴールキーパー1名の計7名であるが、試合中の怪我等によっては最低5名でも有効とする。

<プレーヤーの交替>

交替は決められた区域(交替ライン)の中で行う。この場合、人数や回数に制限はない。ただし、キーパーがフィールドプレーヤーとしてプレーする場合、又はその逆の場合の交代はハーフタイム時のみとする。

<シュート>

6メートルラインを越えてシュートすることはできない。ただし、6メートルラインの外側よりジャンプして、空中で6メートルラインを越え、着地前にシュートすることは構わない。

<フリースロー>

反則が起きた場合、反則したチームの相手チームにフリースローが与えられる。フリースローは反則のあった地点から行われる。ただし、反則のあった地点がゴールエリアラインとフリースローラインの間ときは、フリースローラインのすぐ外側の最も近い地点からフリースローを行う。

<7メートルスロー>

次の場合は7メートルスローが与えられる。

- (1) 明らかに得点チャンスが妨害されたとき。
- (2) 防御側のプレーヤーが、ボールを持った攻撃側のプレーヤーを邪魔するためにゴールエリアに入ったとき。(ゴールキーパー以外はゴールエリアライン内側でのディフェンスはできない。)
- (3) 投球者はスローが終了するまで片足を地面につけ、7メートルラインを踏んだり、踏み越したりしてはいけない。
- (4) 投球者はレフリーの吹笛の合図によって、3秒以内に直接シュートする。

<その他>

- (1) 滑り止めとしての松ヤニ・両面テープなどの使用は禁止とする。(ただし、けが防止等のために指や手にテーピングを巻くことは可とする。)
- (2) 次のケースでは、審判は該当する選手を2分間の退場とする。
 - ・不正交代と不正入場があったとき。

- ・「相手に対する動作」の違反、スポーツマンシップに反する行為、相手選手がスローを行うお
うとしているときの違反などが繰り返し行われたとき。
- ・攻撃チームの違反が判定されたのに、すぐにボールを床の上に置かなかったとき。
- ・警告(イエローカード)を2回、審判に出されたとき。
- ・ゴールキーパーと1対1の状況で売ったシュートが、ゴールキーパーの頭に直撃した。

- (4) コートのベンチは抽選番号の若いチームがオフィシャル席に向かって右側とする。
 (5) その他の競技規則については日本ハンドボール競技規則に準ずるものとする。

<試合方法>

各ブロックによるトーナメント方式。

<特に注意する反則>

- (1) ダブルドリブル・・・ドリブルしたボールを保持して、再びドリブルをすること。体に一度触れ、
床に落ちたボールを同一者が拾い上げ、ドリブルをすることも、ダブルドリブルとする。
- (2) キックボール・・・キーパー以外がボールを足でプレーすること。
- (3) オーバーステップ・・・ボールをもって4歩以上歩くこと。
- (4) ホールディング、プッシング・・・相手をつかんだり、押したりすること。
- (5) ハッキング・・・相手の腕や手をたたくこと。
- (6) ラインクロス・・・プレーヤーがゴールエリア内に入ること。
- (7) チャージング・・・相手にぶつかること。

<コート>

